





巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ日程表

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

(以下の日程は、現地の都合で細部が一部変更になる場合があります)

Date	ワークショップ概要	移動時間
1月5日	各自お手配したフライトでダッカ国際空港に到着 ダッカ空港到着後、到着ビザカウンター(arrival visa counter)にて必要書類の提出及び記載を行い、ビザの申請を行います。(申請料無料)申請はご自分でお願いします。 通常は到着ビザカウンターで入国スタンプが押され、そのまま入国となります。 必要な方は空港内でスマホ用のSIMカードを購入頂けます。 ターミナルの外に出ると、スタッフがお名前の書かれたボードを掲げてお待ちしております。 そのまま専用の送迎車で市内のホテルへ移動となります。 持田がホテルでお客様をお待ちしており、チェックインのお手伝いをさせていただきます。 ホテル到着後、夕食へご案内致します。 当日の到着が早く、夕方までにお時間がある場合はチェックイン後に市内で撮影します。 オールドダッカでは混雑するリキシャの渋滞や、活気溢れる市場の様子を雑踏に入り撮影します。 川を渡る多くの小舟や、果物や野菜を売る人々。 カオスのようなダッカの旧市街では、目にする全てがフォトジニックです。午後の自然光を取り入れる事で、素晴らしいストリートフォトを撮る事ができます。 ポートレート撮影の場合は、笑顔でハイ！って言ってから。断れる事は滅多にありません！撮ったらThank youを忘れずに。 派手な装飾のリキシャを画面に入れる事で、ダッカらしい写真に挑戦してみましょう。	BG直行便 7.5時間 他社乗継便 11時間以上 着陸後のダッカ空港内の所要時間 約40分~1時間 空港から市内 約1~2時間 深夜40分程度 移動距離約17km
お食事&ホテル		
朝食 × 昼食 × 夕食  チェックインが21時を超える場合はランチボックスになる場合があります。【宿泊先 ダッカ市内】		
Date	ワークショップ概要	移動時間
1月6日	ホテルで朝食後、荷物を纏めてチェックアウト 専用車に乗り、ダッカ郊外の広大な煉瓦工場に移動します。 煉瓦工場ではたっぷり時間を要して撮影を楽しんで頂けます。(約2時間以上) お昼頃に撮影を終了。その後チッタゴンへ移動します。 途中、清潔なレストランで地元の料理のランチを召し上がって下さい。 この日の目的地 チッタゴンには夕方到着致します。 ホテルにチェックイン後に夕食となります。 お食事は、ホテル内又は周辺のレストランとなります。 食後、希望者に限り無料で撮影レッスン会を開催します。 この季節のダッカは霧と煉瓦工場から排出される煙の影響で、午前中の殆どは霧がかかった景色となります。 このような条件では、幻想的で幽玄な写真を撮る事ができます。モノクロで編集するのも良いし、艶やかなサリーを着た労働者達の列が霧に溶け込む情景も魅力的です。望遠を用いると更に効果的です。 此処ではあらゆる場所で効果的な素晴らしいポートレート撮る事ができます。 霞に覆われた柔らかい光から、徐々に南国の強い日差しとなり、刻々とライティングが変化していきます。 作業の邪魔にならないように配慮し、笑顔で挨拶すれば、彼らは私達を拒むことなく現場での撮影を受け入れてくれます。 周辺には幾つものスラムが形成されており、数万人もの労働者が家族単位で厳しい条件の下で働いています。 これらの殆どの作業が、彼らの肉体労働により支えられています。 彼らの多くはこのスラムで生まれてその一生を煉瓦の精製に捧げます。 此処で見る情景は美しく、悲しく、そして強く、人の生きる姿をビジュアルとして強烈に感じる筈です。 光や動き、色彩に影、そして働く人たちの表情に集中してシャッターを押し続けて下さい。 夕食後は、希望者に限り、それぞれの批評や質問にお答えし、僕の撮影テク等を紹介したいと思います。	専用車で煉瓦工場 約30分-1時間 煉瓦工場からチッタゴン 市内 4.5-6時間 移動距離 約250km
お食事&ホテル		
朝食 >  昼食 >  夕食  【宿泊先 チッタゴン市内】		

巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ日程表

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

(以下の日程は、現地の都合で細部が一部変更になる場合があります)

Date	ワークショップ概要	移動時間
1月7日 Day 3	<p>ホテルで朝食後、荷物を纏めてチェックアウト</p> <p>この日は、専用車に乗って市内にある塩の精製工場を訪れます。工場の横には国内最大の魚市場があります。もし、塩の工場での撮影ができなかった場合は、こちらの魚市場での撮影となります。</p> <p>途中、国道沿いのドライブインで昼食を召し上がって頂きます。その後、午後2時過ぎにココスバザールのホテルにチェックイン致します。</p> <p>お部屋で少し休憩後、市外のビーチと漁村へご案内します。世界最長のビーチで夕景を撮影した後、ホテルに戻り、その後海鮮レストランで夕食となります。</p> <p>この日最初のポイントの塩工場は小さく、内部は狭いので、各自譲り合いながら撮影して下さい。室内には山のように積まれた塩と黒い壁のコントラスト。半裸の男達がシャベルを手に塩の山を崩しながら作業をしています。壁と屋根の隙間から差し込む朝の光がこれらを照らす事により、不思議な情景を醸し出します。</p> <p>この日のハイライトはココスバザール市外の漁村とビーチでの撮影です。此処は数万匹もの魚を干すドライフィッシュの村が点在しています。これらの村のほぼ全てが漁業を生業にし、3万人ほどの人々が干物の仕事に従事しておりその多く(約3/2)が女性です。漁村に入ると、独特な干魚の匂いに包まれます。そしてあたり一面に広がる数百万匹もの干した魚に圧倒される事でしょう。竹網に載せた小魚を両手ですくうようにパラパラと空気にあてる女性たち。大きなバラクーダを担いで竹竿に干す男達。その周りで遊ぶ子供達。干した魚に西日が当り、斜光に輝く光景はあまりにもフォトジニックです。西日から夕景へと刻々と変化する斜光の中で、光と影に注意を払いながら様々な要素にカメラを向けましょう。子供達の為にお菓子を忘れずに。一掴みのキャンディーが子供たちを素晴らしい撮影のモデルにしてくれます。網に乗った小魚の中で働く女性達も素晴らしい被写体です。鮮やかなサリーを着た女性達と西日に銀色に輝く無数の魚と南国の空のコラボレーションは、ウインザーニュートンの水彩絵の具を溶かしたパレットのようです。西日が椰子の下に来る頃には漁村を離れてビーチまで歩いていきます。ベンガル湾に沈む夕日を背景に、三日月形の漁船を組み合わせてみましょう。素晴らしい多くの要素に恵まれた場所での撮影は、ベンガル湾に日が沈む時まで続きます。</p>	<p>専用車で塩の精製工場まで10-15分</p> <p>チッタゴンからココスバザールまで約5時間(途中約0.5時間の立ち寄り)</p>
お食事&ホテル		
朝食 > 🍴 昼食 🍴 夕食 🍴		【宿泊先 ココスバザール市内】
Date	ワークショップ概要	移動時間
1月7日 Day 4	<p>早朝専用車で市場を訪れます。1時間ほど撮影後、再びホテルに戻り朝食をとって頂きます。</p> <p>その後、専用車で海岸沿いを南下します。途中、漁村に立ち寄りながらミャンマー国境付近まで移動します。</p> <p>その後、午後の景色を車窓から眺めながら、北上してホテルに戻ります。夕食はホテルに戻った後を予定していますが、状況によってはホテルに戻る途中への変更もあります。尚、翌日は国内線でダッカに戻ります。そのため14kgを超える荷物はこの夜ダッカに戻る車に載せて下さい。</p> <p>この日は朝食前に市内の市場で撮影を行います。河口に面した残橋の先には何十曹もの漁船が並び、男達の手によって次々と魚が水揚げされていきます。籠からはみ出すまでに満載された魚は、そのまま車に載せられるか、又は隣接した市場に卸されてそのまま食材として売られます。早朝の陽光にこれらの魚が銀色に輝く様子を撮影して下さい。魚が満載された籠を担いだ男達が、リズムカルに歩く姿も何だかユーモラスです。船員の許可があれば漁船に上がる事もできます。船底から次々と収穫した魚を取り出す光景や、漁を終えて誇らしげな顔でタバコを吹かしている漁師。ここでも様々な要素があり、早朝のライティングはこれらの情景を映す最良のスポットライトとなるでしょう。此処では常に魚を洗う水で濡れているので、足元に注意を払いながら撮影して下さい。撮影を終えた後は朝食のためにホテルに戻ります。</p>	<p>ホテルから市場まで約10分 片道5km</p> <p>ホテルから国境付近まで片道2時間 約80km</p> <p>途中様子を見ながら漁村やビーチ、市場などに立ち寄ります</p>

巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ日程表

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

(以下の日程は、現地の都合で細部が一部変更になる場合があります)








Date	ワークショップ概要	移動時間
1月7日 Day 4 つづき	<p>朝食後は専用車でバングラディッシュ最南端を目指します。 途中、漁村に立ち寄りながらミャンマー国境付近まで移動します。 浜辺で地網を引く光景や、ビーチで遊ぶ全裸の子供達、この地を何度も撮影しているBPSのプロ写真家の嗅覚に従い、適切な場所に 停まりながら撮影を続けます。</p> <p>三日月型の漁船はどの場所でも見る事ができます。時折目にするコールタールで塗られたムーンボートは、そのユニークな形状がより 印象的に映ります。</p> <p>大勢の漁師達により網に曳かれて浜に揚がるムーンボートは見逃せません。水際のリフレクションによって、素晴らしい被写体になる 筈です。100%の保証はできませんが、多くのチャンスは存在しています。</p> <p>復路の途中では小さな村に立ち寄ります。 この季節には市場にオレンジ色の檳榔が溢れています。地元で収穫された果物や野菜が色鮮やかに市場を彩っています。 それらを売る子供達は絶好の被写体になる筈です。</p> <p>ベンガル湾を染める夕景を写真に収めてこの日の撮影は終了となります。</p> <p>夕食後は、希望者に限り、それぞれの批評や質問にお答えし、僕の撮影テク等を紹介したいと思います。</p>	
お食事&ホテル		
朝食 > 🍴 昼食 🍴 夕食 🍴		【宿泊先 コックスバザール市内】
Date	ワークショップ概要	移動時間
1月8日 Day 5	<p>朝食後ホテルをチェックアウト 国内線で首都ダッカに戻ります。</p> <p>昼過ぎに市内のホテルにチェックインし、お部屋で休息後ダッカ市内で撮影をします。 お食事はダッカ市内となります。</p> <p>前日、コックスバザールでお預けになったお荷物は、ダッカのホテルでお受け取り頂けます。</p> <p>この日の撮影は午後15時頃を目安としています。但しバングラディッシュの国内線は遅延が多い事から当日の状 況を勘案しながら適切な場所をご案内させて頂きます。</p> <p>もしお買い物をされるのなら、希望者の方は自由行動としてショッピングをお楽しみ下さい。</p>	<p>ホテルからコックスバ ザール空港まで10分 約5km</p> <p>国内線(コックスバザール ルーダッカ片道55分)</p> <p>空港から市内 約1~2時間 深夜40分程度</p> <p>移動距離約17km</p>
お食事&ホテル		
朝食 🍴 昼食 🍴 夕食 🍴		【宿泊先 ダッカ市内】
Date	ワークショップ概要	移動時間
1月9日 Day 6	<p>朝食後ホテルを出発 専用車で「ビスワ イジュテマ」の会場となるダッカ郊外のトンギに向かいます。</p> <p>この日は巡礼祭の初日となります。 世界中から300万人を超える巡礼者がトンギを目指すため、交通規制が行われます。</p> <p>できるだけ撮影ポイント近くまで車で向かいますが、現地の交通事情により徒歩で1kmほど歩く事を予想していま す。然しながら途中で例祭を祝う多くの人々や混雑列車の撮影も試みます。</p> <p>概ね正午前後に行われる礼拝を撮影後市内のホテルに戻ります。 市内までは大渋滞が予想されますが、夕方までには戻れる筈です。 その後、ホテル内又は徒歩圏内のホテルで夕食となります。</p>	<p>ホテルから撮影ポイント のトンギまで約25km 片道1.5~2時間</p> <p>※上の時間は目安</p>



巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ日程表

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY





(以下の日程は、現地の都合で細部が一部変更になる場合があります)

Date	ワークショップ概要	
1月9日	<p>この日は旅のメインイベントとなります。 「ビスワ・イジュテマ」は1942年に始まったイスラム教徒同士の団結と連帯、相互の博愛を示す国際的なイベントです。 このイベントはイスラム各国の政治的及び宗派を超越し、平等に神の下で平和を祈る祭典として世界150カ国から300万人ちかいモスリムの人々が巡礼のためこの地に訪れます。</p> <p>車を降りた後、人込みをかき分けながら会場近くの撮影ポイントまで徒歩で移動します。 此処ではBPAの写真家が毎年撮影するポイントにご案内致します。</p> <p>この日はイスラムの教えに則り一日5回の礼拝の内、2度目に行われる(dzuhur/ズフル)の時間に合わせて撮影します。 (dzuhur/ズフル)の時間は太陽が真上の瞬間に行われます。 概ね正午前ですがズフルが近づくと全ての人々は祈りの準備を始めます。 モスクからアザーンが流れるといよいよズフルです。視界の全てに人々がぎっしりと並び、それら100万の人々が一斉にメッカに向けて祈る姿には心が震えます。</p> <p>ズフルの礼拝(サラート)は4回度繰り返し行われます。 ズームレンズで構図を変えながら独自の視線で撮影しましょう。</p>	
Day 6 つづき		
お食事&ホテル		
朝食  昼食  夕食 		【宿泊先 ダッカ市内】
Date	ワークショップ概要	移動時間
1月10日	<p>朝食後ホテルを出発します。</p> <p>専用車でオールドダッカのフェリーターミナル近くまで移動します。 その後、小舟に乗ってブリゴンガ川の対岸へ渡ります。 その後縫製工場で撮影します。</p> <p>更に徒歩で船の解体場所と周辺に広がるスラムで撮影をします。 昼食は、個々でランチボックスもしくは近くのレストラン(KFC等)で召し上がって頂き、午後2時頃を目安に再度小舟で対岸に戻ります。</p> <p>その後は、フェリーターミナルとオールドダッカで撮影をし、夕方までにホテルに戻ります。</p> <p>この日の撮影も印象深いものとなるでしょう。 大小の船が行き交うブリゴンガ川を手漕ぎの船で渡り、縫製工場のビルの屋上に上がります。 此処から朝靄に覆われた大河を俯瞰する撮影を行います。 その後、ビル内の縫製工場を訪れます。工場では未就学の子供達が小さな手でシャツやジーンズをミシンで縫う姿が見れるかもしれません。この一帯で縫製された製品の多くは欧米に輸出され、一部は日本へも輸出されています。</p> <p>コストを重視する消費者のニーズが、児童就労の温床となる一方で、此処での就労により生活を維持している側面も事実です。 その後徒歩で船の解体場所で撮影を行います。 錆びて解体されていく船の様子は、まさに船の墓場と形容するのに相応しい光景です。 飛び散る火花、鉄骨を運ぶ労働者、そして此処でも危険な仕事に従事する子供達の姿を見る事ができます。 巨大な解体場と後方には解体された部品を加工する小さな工場とスラムが混在しています。 15,000人の日雇い労働者達が、これら一帯で船の解体を生業にして働いています。</p> <p>運が良ければ鉄の熔解現場を撮影できるかもしれません。 高温に溶かされた赤い鉄の容器を、殆ど手作業で金型に流し込む光景は、あまりにも恐ろしく美しい情景です。此処では多くの要素が混在し、写真家の好奇心を刺激します。それらの幾つかは快適とは対極にありますが、冷静に被写体と対峙しましょう。</p> <p>最後に、喧騒に塗れたフリーターミナルとその周辺を撮影して、この日のアクティビティーは終わります。</p>	<p>旧市街及び川の対面への移動の為、片道30分程度の移動</p> <p>※上の時間は目安</p>
Day 7		
お食事&ホテル		
朝食  昼食  夕食 		【宿泊先 ダッカ市内】

巡礼祭「ビスワ・イジュテマ」と「南海岸」を巡る撮影ワークショップ日程表

MUSLIM EID FESTIVAL & DISCOVER BANGLADESH PHOTO TOUR ITINERARY

(以下の日程は、現地の都合で細部が一部変更になる場合があります)

Date	ワークショップ概要	移動時間
1月11日	<p>深夜夜明け前(午前2-3時頃)にホテルを出発致します。</p> <p>専用車で郊外の駅の近くまで移動します。</p> <p>この日は3日間にわたり開催された「ビスワ・イジュテマ」巡礼祭の最終日です。</p> <p>地方から巡礼に訪れた信者達が田舎に帰る為、列車に乗る姿を撮影します。</p> <p>会場のトンギ周辺は、大勢の信者によりカオスのような状況となり、彼らが乗るバスや乗用車で溢れかえるため、早朝から凄まじい渋滞となります。</p> <p>車内で仮眠をとって頂き、その後トンギ駅で混雑列車の撮影を行います。</p> <p>概ね昼前に撮影を終了し、その後市内で昼食後ホテルに戻ります。</p> <p>この日、私達は駐車場から夜明け前のトンギ駅を歩いて目指します。</p> <p>足元に注意しながら線路の横を1kmほど歩くと暗がりに無数の巡礼者達が蠢いているのが見えます。</p> <p>この時期のダッカは、深夜から朝方にかけて霧に覆われています。</p> <p>トンギ駅に着いたら、ホームに立ち列車が来るのを待ちます。暫くすると夜が薄っすらと明けはじめ、1番列車が到着します。</p> <p>朝靄の中をオレンジ色のライトが浮かび、徐々に近づいて来る列車に、誰もが目を疑う事でしょう。</p> <p>既に山のように人々を乗せた鉄の塊が暗闇を裂いて駅に到着すると、更にホームの人々が列車によじ登ろうとします。</p> <p>驚愕の光景ですが、朝靄の中に蠢く一番列車は、この日最大のシャッターチャンスです。</p> <p>一番列車が通り過ぎると、同じように次々と大勢の人々を乗せた列車がトンギ駅に到着します。</p> <p>先頭の機関車の真上で国旗を振る人、屋根から屋根に飛び移る人々、あらゆるビジュアル要素が次々と絶え間なく現れます。</p> <p>次第に朝靄が消え、太陽が昇ると更にそれらの光景が明瞭になり驚きが増す事でしょう。</p> <p>此処では、十分に時間を用いてあらゆる側面から各自撮影して頂きます。</p>	<p>ホテルから撮影ポイントのトンギまで約25km</p> <p>片道1.5~2時間</p> <p>※上の時間は目安</p>
Day 8	<p>お食事&ホテル</p> <p>朝食  昼食  夕食 </p> <p>【宿泊先 ダッカ市内】</p>	
1月12日	<p>この日は最終日となります。</p> <p>各自のフライトの出発時間に合わせて空港まで送迎致します。</p> <p>尚、フライト時間が夜の場合は、市内での撮影にご参加頂けます。</p> <p>撮影場所は各自のフライト時間により異なりますので、現地でご都合やご希望等勘案しながら決めさせて頂きませぬ。</p> <p>鶏市場、ベジタブルマーケット、スラム等の候補がございますが、ショッピング等自由に行動して頂いても構いません。</p>	<p>空港から市内約1~2時間</p> <p>深夜40分程度</p> <p>移動距離約17km</p> <p>※上の時間は目安</p>
Day 9	<p>お食事&ホテル</p> <p>朝食  昼食 × 夕食 ×</p> <p>【宿泊先 ダッカ市内】</p>	
最終日		



備考

上の全行程に於いて、持田あきらとBPSのスタッフ(プロ写真家)が同行致します。

ご希望に応じて、皆様の撮影指導を丁寧させて頂きます。

初心者の方、スマホのみのご参加も歓迎です。

尚、撮影場所によっては、BPSが主宰する他のツアー(欧米人グループ)との混合になりますので予めご了承願います。